

教採合格者から後輩へのアドバイス

〈小学校①〉

芸術専修 図画工作分野 新村 蒼子

私は大学推薦で一次試験免除のため、二次試験の対策について紹介します。

二次試験の対策を通して、同じ志をもつ人と積極的に関わることが、合格へのカギだと感じました。人と関わることで、励まし高め合い、多くの有益な情報を共有し合うことができました。

私が特に力を入れて取り組んだことは、教職支援セミナーへの参加です。セミナーでは、経験豊富な先生方から、受験する自治体に合った対策をもらえます。埼玉県の面接には、試験官を児童に見立てた場面指導があります。学生同士ではアドバイスの難しい所も、先生から指導がもらえます。

小論文に関しても、予想外の論題にも対応できる基礎をセミナーで学んだおかげで、本番は満点でした。セミナーを通じてできた友達とは、休日にも公民館で面接練習をしました。もちろん違う自治体の受験者との練習も勉強になり、多くの出会いに感謝しています。

このような充実した教職支援を受けられるのは、埼玉大学生の特権です。皆さんも対策を積んで、自信をもって試験に臨んでください。

〈小学校②〉

身体文化専修 体育分野 山本 海翔

私が採用試験を受験するにあたって、特に効果があった取組を紹介します。

一つ目は、多くの方と面接練習を行うことです。面接では、声のトーンや態度、表情、内容など、さまざまな観点から評価されます。私は多くの方と面接練習を重ねる中で、「この人のここが良い」と思った点を意識的に取り入れるようにしました。その結果、さまざまな人の良いところが詰まった、より洗練された面接ができました。二つ目は、自分の考えの軸を明確にすることです。理想の教師像や子供像、授業観、大切にしたい価値観などをノートに整理し、それをもとに面接で回答するよう心がけました。これにより、面接全体を通して一貫性のある受け答えができたと感じています。

私が採用試験に合格できたのは、実務家教員の先生方をはじめ、教職指導員の先生方、共に学んだ仲間、そして支えてくれた家族の存在があったからです。

皆さんも、周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、合格に向けて努力を続けてください。私も学び続け、立派な教員を目指します。心から応援しています。

〈中学校①〉

社会専修 牧野 涼風

私が受験する上で効果的だったと思う取組を、いくつか紹介します。

一次試験については、最初に過去の問題を解き、分析し、問題の傾向を把握することです。私は最初に、過去三年分を解きました。どのような問題が出やすいのかを把握することで、やるべきことが明確になり、効率的な勉強につながります。

二次試験については、人と会って、対面で練習することです。私は教職支援セミナーや教職支援室の個別相談、友人と企画した練習会など、対面で練習できる場を多く利用して対策をしました。試験では、試験官の方々や他の受験者とのコミュニケーションが大切なので、本番に近い形で練習するためにも、対面で行うことがよいと思います。

小論文に関しても、自分で添削することは難しいので、大学の先生や友人に添削をお願いするなど、頼ることが大切です。

私が合格をいただくことができたのは、大学の先生方や共に勉強した友人たちのおかげであると思っています。周囲の方々への感謝を忘れずに、頑張ってください。応援しています。

〈中学校②〉

言語文化専修 英語分野 川崎 花歩

私が教員採用試験のために取り組んだことをいくつか紹介します。

一次試験については、受験する自治体の傾向をつかむことが重要です。膨大な知識を覚えるには時間に限りがあるため、効率を重視して勉強を進めました。傾向を把握したうえで、何度も問題集を解いて苦手分野を克服するとよいと思います。

二次試験については、自分一人で行い組むのではなく、仲間と一緒に対策することを大切にしました。特に英語の実技試験では、発音・文法・語彙選択の仕方などを細かく見合い、アドバイスを合うことが有効だと感じました。そのほかにも、小論文や面接のアイデアを交換し、互いに学び合うことで大きな刺激になりました。一人で対策するには限界があります。仲間と一緒に多くの練習を重ねることで自信にもつながりますし、モチベーションの維持にも役立ちました。

試験対策を進める中で、否定的な気持ちになることも何度もありました。しかし、仲間と励まし合ったり相談し合ったりすることで乗り越えることができました。皆さんも不安なことは多いと思いますが、仲間と支え合いながら頑張ってください。応援しています。

〈高等学校〉

心理・教育実践学専修 中村 亮太

私は、三年次チャレンジ選考で合格し、TOEICで加点申請をした上で採用試験に合格しました。

一次試験対策では、分析と対策を大切にしました。一次試験は出題パターンが決まっているので、難易度を理解し、何を勉強するかを明確にしました。もし分からなければ、AIを活用することも有効です。過去問を解く際の目標点は、当てずっぽうをせず七割としていました。私の失敗談として、四年生になり、TOEICよりも英検の方が専門科目に傾向が近いことに気づき、後悔した経験があるため、過去問は早めに目を通すことを勧めます。

二次試験対策では、教職セミナーを積極的に活用しました。二次試験を独学することは難しいため、全回出席することをお勧めします。面接官経験者の先生方から具体的な評価基準を学べる点は大変有益です。特に意識したことは、質問に正対し、根拠を説明できるようにすること、その準備を大切にしました。

頑張るだけなら他の受験者と同じなので、どう頑張るかが合否を決めると思います。最後になりましたが、みなさんの合格をささやながら応援しています。

〈特別支援学校〉

特別支援教育コース 坂寄 伊万莉

私は一般選考で埼玉県の特別支援学校教員の採用試験を受験しました。採用試験を受けるうえで取り組んだことを紹介します。

特別支援学校教員の試験は五種類の試験があり、様々な面の対策が必要なことが特徴として挙げられるので、まずは過去の問題を解いて傾向をつかむことに留意しました。過去問は、参考書だけでなく、教職支援室も活用しながら幅広く収集することを意識しました。他には、教員になった先輩のお話を聞いて実際の雰囲気を知ることがイメージしやすくなりました。

筆記試験については過去問等で対策し、面接等は実践しないと力は付かないと考え、実際に試験官を経験された方からアドバイスをいただけた教職支援室が開催している面接練習を受けました。これはとても有意義なものだったと感じています。小論文に関しては、論題を見たら大まかに書くことをイメージできるようにすることを目指しました。

採用試験は、どれだけ事前情報を集めて対策するかが大切だなと感じました。一緒に切磋琢磨できる友達もとても心の支えになります。ぜひ互いに高め合いながら、教員という夢に向かって最後まで頑張ってください。応援しています。

〈幼稚園・保育園〉

乳幼児教育コース 二宮 優月

公立幼稚園の採用試験に向け、取り組んで良かったことを紹介します。

一つ目は、子供の姿を具体的に想像するための材料集めです。私の受験した自治体では、専門試験や論文試験、模擬保育があり、対策時には子供の姿を具体的に思い浮かべることが心がけていました。教育要領の文言を捉えたり、保育者としての働きかけを考えたりする上で、実際に関わった子供の姿がヒントになることも多々あります。私は、実習や、個人的に参加したボランティアでの経験が参考になったので、子供と関われる場所へ積極的に赴き、体験の機会を求めることが大切だと思います。

二つ目は、他者を頼ることです。私は、面接と論文のセミナーに参加し、論文は教職支援室の先生に添削していただきました。先生や友達からのアドバイスは、改善点を見つける上で非常に参考になります。また、他の人に見てもらう機会は、落ち着いて本番の試験に臨むための安心材料になりました。受験を控える皆さんには、ぜひ同じ夢に向かう友達や、親身になって指導してくださる先生など、いろいろな人との関わりを大切にしたいです。それぞれの夢が掴めるよう、応援しています。

〈養護教諭〉

養護教諭養成課程 菅沼 凜歩

私が教員採用試験のために取り組んだことについて紹介します。

一次試験の対策については、参考書や問題集をわからないところが無くなるまで解くことを意識しました。最低でも問題集を三度読むようにし、不安がある箇所は参考書やマニュアルを確認し、知識が確実に定着するようにしました。私が受験した自治体は、一次試験の合格基準がかなり高かったので、最新のマニュアルや新しくできた法律などはよく確認しました。

二次試験の対策については、友人と協力しながら取り組みました。面接や小論文では、互いにアドバイスを行い、自分に足りない力を見つけることができました。集団討論では、他学科の学生や他大学の学生と共に練習を行いました。二次試験対策は、たくさんの学生と協力したため、本番も自信を持って取り組むことができました。

試験の対策をしている間は、何度不安な気持ちになり、心が折れそうになることもありましたが、その時は、共に頑張る仲間のことを思い出し、気持ちを引き締めていました。「絶対に養護教諭になる」という強い思いをもって試験対策に挑んでいました。同じ夢を持つ仲間と共に、最後まで頑張ってください。応援しています。